

## 【研究主題】

友達と夢中になって遊びを楽しむ中で、幼児の主体性を育む  
—評価からの保育改善を通して—

### 主題設定の理由

少子化が進み、人間関係が希薄化している近年、コロナ禍も重なり、社会的孤立を感じて育児をしている保護者も増えている。また、グローバル化する社会で幼児を取り巻く環境も著しく変化し、未来が予測困難なものとなっている。そこで重視されているのは、人間形成の基盤となる幼児期の教育であり、「主体性」である。

幼稚園教育要領においても育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた保育改善が推進されている。

それには、保育を振り返る「評価」が鍵となる。そこで本園は、幼児・保護者・教師それぞれにメリットがある“保育ドキュメンテーション”による「評価」に注目した。

本園は、小規模園のため、環境の変化に弱く、活動に自信がもてない幼児が多い状況である。好きな遊びの充実や自然に触れる体験を大事にし、それらの活動を保育ドキュメンテーションで可視化しながら指導の過程を振り返り、保育改善していくことで、「主体性」を育むための環境を構成することができるのではないかと考え、本主題を設定した。

### 研究のねらい

評価からの保育改善を通して、幼児の主体性を育むための援助や環境構成の在り方を探る。

### 研究の仮説

- 幼児の興味や関心を捉えた環境構成を整え、さらに幼児が好奇心や探究心をもって追求できるように援助することで主体性を育むことができるであろう。
- 保育ドキュメンテーションによる評価を通して指導の過程を振り返ることで、幼児理解を深め、保育改善に生かすことができるであろう。

### 研究の内容



#### めざす園児の姿

- ◆元気で伸び伸びと明るい子
- ◆やさしく思いやりのある子
- ◆最後までがんばる子



#### めざす幼稚園の姿

- 明るく楽しい幼稚園
- 一人一人の主体性が発揮できる幼稚園
- 生きる力の基礎を育む幼稚園
- 地域に開かれた幼稚園



夢中になって遊ぶ経験が多い子は、主体性も高い！

大切にしたいのは…非認知的能力

非認知的能力とは…

(テストなどで数値化するのが難しい内面的なスキル)

主体性・自己肯定感・協調性・自制心・意欲  
コミュニケーション力・粘り強さ・計画性・創造性 等

\*自信をもてるようになる

“自己肯定感”

\*学びに向かう力が高まる

\*新しいことに好奇心をもてようになる

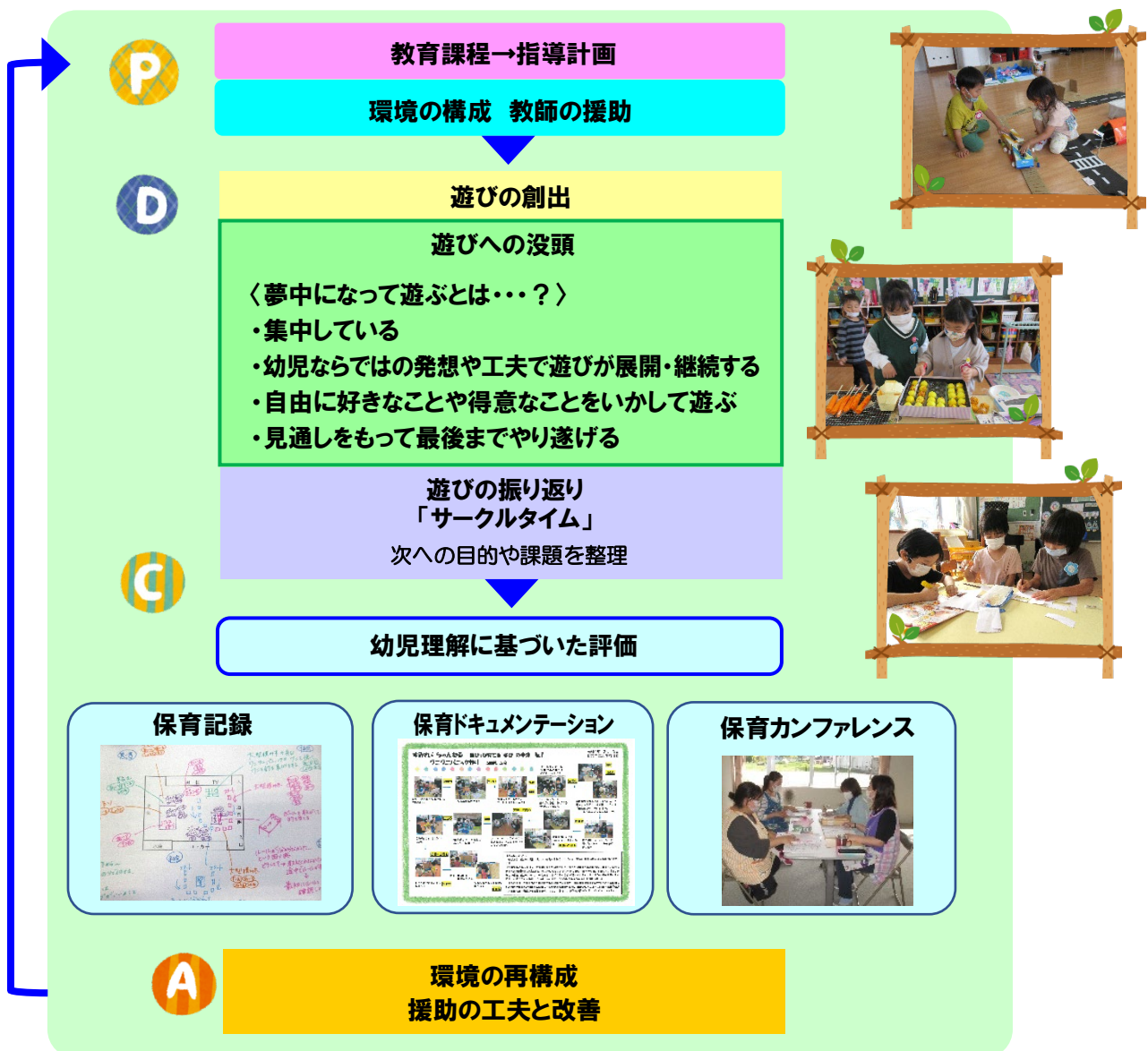
\*主体性が高まる

あと伸びする力が育まれる

人生がより豊かに！



## 北浦幼稚園の取組



夢中になって遊ぶことのできる環境構成

様々な興味・関心を引き出す環境

幼児の発達に合った環境

幼児が主体的に動ける環境

\* 幼児の学びを支えるために・・・ \*

教師が願いを込めて、仕掛けを施す！

- 幼児が安心できる環境
- 多様性を尊重できる環境
- 活動が継続的に考えられている環境
- 挑戦し、探求し、試行錯誤できる環境（失敗できる！）
- 創造的でオープンエンド（変更・修正が可能）な環境
- 幼児が自分で選択できる環境
- 考える余地のある環境（あえて欠けている部分がある）



主体性を育む教師の援助

幼児の可能性や力を信じて・・・

- 見守る保育
- 機会をつくる
- 考えや気持ちの表現を待つ、引き出す
- 気づきや考える力を引き出す
- 幼児の情報収集を助ける
- 話し合いを助ける
- 一緒に考える、ヒントを出す
- モデルを見せる
- 保護者に働きかける など



「見守る保育」とは？

ただ見ている（傍観）ではなく  
温かな関心を寄せて見守ること！

- ありのままの姿を観察して認める
- 簡単に手を出さず、幼児の気づきにつなげる
- 次の援助を予想しながら待ち、幼児自身の可能性やタイミングを奪わない
- すぐに手助けせず、幼児に任せてどうすればよいのかを自ら決めていく経験を積む
- 「わかった」「できた」という経験を積めるようにする
- 側にいて安心感をもって挑戦できるようにする（失敗してもいい）
- 幼児同士で教え合ったり伝え合ったりできるようにする
- 安全確保のための見守り など



## 北浦のよさを生かして

### 北浦の地域性を大切にする

- いつでも身近な自然に触れられる環境
- 保護者の方が教育に熱心で協力的
- 保護者の協力による食農体験の充実（野菜の育て方など）
- 地域の方に温かく見守ってもらえる安心感



家庭、地域社会、幼稚園等施設におけるそれぞれの教育機能が連携することにより、幼児の日々の生活や学びの連続性を確保するとともに、その成果を円滑に小学校に引き継ぐことが必要



## 幼児理解に基づいた評価

幼稚園でいう「評価」は…幼児の発達の理解と教師の指導の改善という両面から行うことが大切  
指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、  
幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かす

## 保育ドキュメンテーションって？

### 保育の見える化

保育を写真や動画、音声やコメントなどで記録するもの！



【メリット！】

- 幼児の“学びのプロセス”が見えてくる(幼児理解)
- 教師、保護者、幼児が活動を振り返ることができる(対話のツール)
- 保護者、地域とシェア(連携)
- 幼稚園のチーム力が上がる(組織的かつ計画的な取組を推進)
- 評価のツールとしても機能的(保育の質の向上)



## 考え方のアップデート・対話できる職場作りを！

保育の根っこ(よさ)は残しつつ、考え方を更新して、園全体で意識改革を！

- 幼児一人一人の個性を見て育てること
- 認知能力よりも非認知的能力を育てる
- 教師よりも子供主役の保育であること
- 全員で同じことをさせるのをやめる
- 行事の在り方を見直す（子供にとって無理はないか？本当に必要か？）
- 片付けの仕方をみんなで考える（明日につながるように場や空間を残しておくのもよい）



**【夢中になって遊ぶことのできる環境】**

- ・幼児が安心できる、やりたいを発揮できる場
- ・表現の多様性を受け止め合う雰囲気
- ・幼児が自由に選択でき、考えることができる
- ・挑戦し、探究し、試行錯誤できる
- ・活動を継続的に考え、片付けの方法を考える

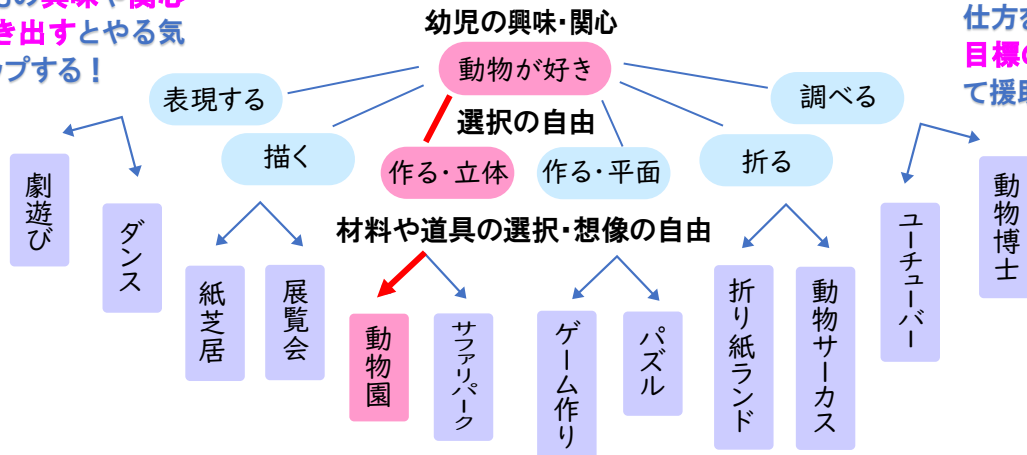
**【主体性を育む教師の援助】**

- ・興味・関心を捉え、遊びを見守る
- ・幼児の情報収集を手助けする
- ・活動が継続するように話を助け、ヒントを出す  
(幼児の気付きや考える力を引き出す)
- ・保護者(家庭)への働きかけ

子どもの興味や関心を引き出すとやる気もアップする!

**遊びの枝分かれ「選択や想像の自由」**

自然なアプローチの仕方を考えて目標の実現に向かって援助する



さらに広がる探究心や想像力

目的実現に向かって取り組む姿勢を大切にする  
「遊ぶ」から「夢中になって遊ぶ」へ

**幼児の興味・関心から**

**学級全体の遊びへと変化**

動物が好き



- ・動物に興味・関心をもっている様子が見られる。
- ・慣れ親しんだ友達や教師との会話の中で、「こうしたい!」という考えや思いが出てきた。
- ・動物を作ってみたいが、一人で作るのは難しい。

- ★絵本や図鑑を用意する。
- ★安心して過ごせる場をつくる。
- ※幼児の心の動きを受け止める。
- ※幼児一人一人の発達段階や興味関心を把握する。

作りたい(立体)



- ・様々な材料の中から自分たちで新聞紙を選んで作ることにした。
- ・友達と一緒に試したり挑戦したりしながら形を整えていく。難しいところは、教師に手助けしてもらった。
- ・思いが実現した喜びで自信がついてきた。

- ★試行錯誤できる場や時間を確保する。
- ※幼児が思いを実現できるように、アイデアを引き出したリ一緒に作ったりして、タイミングよく援助する。
- ※失敗も受け止め、原因に気付けるようにする。

動物園にしよう!

ぼくもやってみよう!



- ・作った動物を段ボールの枠に入れて、動物園にする。
- ・「ぼくもやりたい!」と、さらに仲間が加わり、動物も増えていった。
- ・友達が増えると、材料も考え方も様々である。(新聞紙以外にこれまでの経験から折り紙等で作る幼児もいた。)

- ★活動の振り返りの時間を設け、見通しや計画を整理する。
- ※幼児同士で教え合ったり伝え合ったりして、関わりが深まるようにする。
- ※表現の多様性を認める。
- ※選択したり考えたりする余地を意図的につくる。

動物の世界選手権だ!



- ・幼児のアイデアで、どの動物が一番強いかわかる動物の世界選手権が始まった。
- ・友達とイメージを共有して、活動が広がってくると、どの子も生き生きした表情に変わっていった。
- ・幼児同士で意見を出し合う姿も見られるようになった。
- ・「なわとび大会」でメダルをもらった経験から、世界選手権でもメダル作りが始まった。

- ★友達と互いの意見や表現を認め合える場をつくる。
- ★活動が継続するように場や空間を残す片付けの方法を考える。
- ※友達と協力し合う姿や役割をもって行動する姿を認める。
- ※自分たちの力で活動を進める楽しさを味わうことができるように見守る。

[★環境の構成 ※教師の援助]

## 幼児の変容

- ・幼児は、夢中になって遊ぶことのできる環境の中で自分の思いを抱き、その思いが実現に向かう過程に失敗や工夫、選択肢などがあることで、自ら行動を起こすことに自信をもてるようになっていった。
- ・学級全体の遊びに発展すると、さらに幼児一人一人の経験が遊びに反映され、意見交換をしながら、主体的に取り組めるようになった。幼児同士で互いのよさを知るきっかけにもなっている。

## 教師の変容

- ・主体性を育む援助の中で“見守る保育”を意識したことで、幼児の可能性を感じる事ができた。

## 【考察】

- ・幼児が自分の思いを実現できるように、その時々で様々な選択肢を与えながら援助していくことで、満足感や自信に繋がったと考える。
- ・“夢中になって遊ぶことのできる環境”を意識して援助することで、幼児は、自ら意欲的に意見を出したり行動したりできるようになり、主体性が高まったと考える。

## 事例2 写真や動画を用いて保育を評価し、指導に生かしていった事例

2年保育 5歳児 9月

## 【保育ドキュメンテーションの作成】

### すみれ☆ちゃんねる 「遊び」が育てる「学び」の未来 No.4

#### 夏の体験から遊びが展開 5歳児 9月

令和4年 9月30日  
行方市立北浦幼稚園

**おまつりごっこをしよう!!**

まずは、土作りだ!

**思考力**

フルーツが焼けるといいよね!

**協同性**

たこ焼きもできたよ! 大羽の作るたこ焼きは美味しいよ!!

**社会性**

いらっしやいませ~

りんごあめも作ろう!

**自立心**

僕たちは、お金を作るよ!

**水族館を作ろう!!**

**自立心**

図鑑で調べてみよう!

1学期に作った魚も使えそうだね!

**感性**

新しい魚もできたよ!

**思考力**

みんなで話合いサークルタイム

**言葉 道徳**

水族館に貼ってみよう!

**文字への関心**

名前が「すみれ水族館」

金魚すくいもできるようにしよう!!

**感性**

チケットとお金作りは、任せて!!

**協同**

**【担任のコメント】**

楽しい遊びの展開には、「言葉による伝え合い」がとても重要です。夏休みの体験を伝え合う子供たちは、とても輝いていました。共通の体験にしよう!と始めたのが「おまつりごっこ」や「水族館作り」です。おまつりごっこでは、様々な品物を作り、役割分担をしてお店屋さんを楽しむことができました。また、水族館作りでは、1学期に作った魚と今やってみたい水族館が関連して、経験したことを生かしながら、新しい形にしていく姿が見られました。

写真を用いて、経過や活動の展開を伝える。

幼児の会話を捉え、活動の流れを記録する。

写真で、様子をより分かりやすく伝えることができる。

写真や文字でまとめていくことで、次の手立てや保育の改善点が見えてくる。

幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)を捉え、幼児の育ちや学びを伝える!

担任のコメントで活動を振り返る(評価)

幼児の体験で何を大事にしているのか、という価値や意味を伝えることができる。



## 【家庭と共有】 保護者と教師の関係

- ・印刷して配付する。
- ・懇談会で配付し、動画と合わせて説明する。



### 【保護者意見】

- ・幼稚園でこんなふうに進んでいるんだ!と気付くことができた。
- ・おたより(保育ドキュメンテーション)と動画で子供の園生活の様子がよくわかってよかった。
- ・家庭で子供との会話が弾んだ。父親の関心が高まった。
- ・子供の成長を感じる事ができた。

## 【職員間でカンファレンス】 教師と教師の関係

- ・言葉だけで説明するよりも理解しやすく、様々な教師の多角的な視点で視野が広がった。
- ・幼児の育ちを多面的に捉えることができ、その後の援助や環境の構成を見直すことができた。
- ・職員間で幼児を理解し、園全体で取り組んでいく方法を共有し合うことができた。



## 【幼児と活動を振り返る “サークルタイム”】 幼児と教師の関係

- ・写真や動画で振り返ることで、幼児が互いの取組やよさを知るきっかけになった。
- ・特に運動遊びは、動画で友達の動きをよく見ることができ、幼児が次の日の目標も立てやすい。
- ・写真や動画を使うと、振り返りの時間が長くなってしまいう傾向にあるので、効果的かつ効果的に進められるようにしたい。
- ・幼児の思いに寄り添って教材準備ができるようになった。



### 【考察】

- ・保育ドキュメントを作成し、保護者と共有できたことで、遊びを通しての学びが可視化され、幼児の育ちや学びを理解してもらうことができた。
- ・写真や動画を使って活動を振り返ることで、幼児はその日の取組を客観視でき、互いのよさを認め合うことができた。また、目的や目標となるものが想像できたことで、幼児主体で活発に意見交換ができた。
- ・教師は、幼児・保護者・職員同士との対話から、保育改善に向けた手立てや見通しをもつことができたと考える。

## 研究の成果

- 幼児の興味や関心を捉えた環境構成を整え、夢中になって遊ぶことのできる環境を整えることで、幼児は探究する面白さや楽しさを感じる事ができた。また、もっと追求したいという気持ちや意欲が高まりから、主体性に繋がっていった。
- 保育ドキュメンテーションを用いて保育を可視化することによって、幼児の育ちや学びが捉えやすくなり、幼児理解に繋がった。さらに、家庭と共有することで、保護者の理解も深まり、幼児は自分たちの活動に自信をもつことができた。

## 今後の課題

- 幼児の興味や探究心を園内と限らず地域社会に広げ、社会に開かれた幼稚園を目指して、保育の質を高めていきたい。
- 幼児の発達や関心に合わせて、直接的な体験を大切に保育を実践し、今後も保育を可視化しながら、指導の過程を振り返り、環境や援助の工夫改善に努めていきたい。

### (主な参考文献)

- ・幼稚園教育要領解説(文部科学省) ・幼児理解に基づいた評価(文部科学省) ・指導と評価に生かす記録(文部科学省)
- ・幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(文部科学省)
- ・思いをつなぐ保育の環境構成(宮里暁美) ・子どもの「やりたい!」が発揮される保育環境(宮里暁美 監修)
- ・保育の質を高めるドキュメンテーション(秋田喜代美、松本理寿輝 監修) ・保育ドキュメントのすすめ(大豆生田啓友)
- ・10の姿で保育の質を高める本(汐見稔幸、山中昌樹) ・OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来(白井俊)